

6章 時間構文

問題

【1】

ポイント

整序英作文を解きながら、どの部分を倒置させるべきか、なぜ倒置されるのかを確認していく。詳しくは‘倒置’の回でも扱う。

解答・解説

- (1) (Not) another word did she say until they left (the room.)
○否定の目的語が前置されると、そのあとが倒置形になることが多い。
- (2) (Never) in my life have I heard (such a stupid thing!)
○文修飾の否定の副詞が文頭に置かれると、その後は必ず倒置形になる。
- (3) (Not) until you lose your health do you realize (its value.)
○ Not until you lose your health が否定の副詞節を作り文頭に出ているため、その後は倒置形にする。
- (4) (No) doubt he meant well but he did it in a mean (way.)
○ no doubt (おそらく) の no は文全体を否定するものでなく、doubt のみを打ち消す語否定であるから、その後は倒置形にならない。
- (5) (No) sooner had the train got out of the long tunnel than the snowy country caught (my eye.) (= The train had no sooner got out of the long tunnel than the snowy country caught my eye.)
○ No sooner という否定の副詞が文頭に出ているため、その後が倒置形になる。
- (6) (Tired) as I was, I was still (unable to sleep.) (= Though I was tired, ~)
○ [] as S V, ~ = Though S V [], ~の形式。
- (7) (Suddenly) she felt that being with Tom was like being with her father, and she understood that she) did not love him, nor he her. (= ~, nor did he love her.)
○英語は繰り返しを嫌う言語と言われる。nor V S で、繰り返しの部分を省略した結果、nor he herだけが残ったと考えればよい。
- (8) (Among the things) that made a strong impression upon me while young was (my elder sister's great talent for music.)
○ Among 以下は前置詞句で、was の主語である talent が後置されている。なお、among は「～の中の1つ」と訳せる場合がある。
Ex. He is among my friends. (= He is one of my friends.)
(彼は私の友人の一人です。)
- (9) (Still strongly) impressed on my mind is something this woman happened to murmur (while she was clearing up after a meal.)
○全体として、補語が前置された C + V + S の形となっていて主語は something である。

something の後には関係詞 which [that] が省略されている。

【2】

解答・解説

順に、土曜日・いなかつた・月曜日。

- till/until を「～までずっと」の意味で用いる場合は本問のような曖昧さが生じる場合があるため、特に英作文では注意する。

【3】

ポイント

会話の流れを正確に読み取って、接続関係に注意する。

解答・解説

(1) after

- 「式が始まったあとになるまで着けない→式が始まった後になってようやく着く」と考えればよい (= It is not until after the wedding starts that we will get there.)。

(2) by

- by ~「～までに」は基本事項。

(3) before

- 式が始まる「前に」着きたい。

(4) through

- 「月曜日から土曜日まで」を from Monday to Saturday とすると、土曜日が含まれているか明らかでなくなる懼れから、(主に米語では) 土曜日を含むことを明記するために through を用いることがある。

(5) but

- 「しかし」日曜日は運行していない。

(6) As long as

- as long as S V (SがVする限り (= if S V)) と‘条件’を表す。as far as S V は‘範囲’の限定であるからここでは不適。

(7) since

- 主節が現在完了形であることにも注意。

全訳

男性と妻が結婚式出席のため大阪旅行を計画している。

妻：もし9時のひかり号に乗れば、着くのは結婚式が始まった後になってしまふ。遅くとも11時40分までには式場に着いていなくては。

男：もちろんだよ。当然、式が始まる前に着きたいよね。8時25分のぞみ号にしよう。

妻：時刻表によれば、その列車は月曜日から土曜日まで運行しているけど日曜日は走っていないよ。もっと早い列車に乗らないと。余裕をもって着きたいから。

男：間に合って着けさえすればそれでいいけど。結婚式ってどんなものか知ってるよね。必ず遅れて始まるものさ。

妻：ああ、大阪かあ。あなたの妹の結婚式以来行ってないわね。

男：まあ、式が終わったあとに最大でも3時間は自由な時間が取れるはずだね。もしかしたら大阪城に行けるかも。好きだったよね？

妻：結婚式に出る着物を着てプレゼントが詰まったバッグを持って3時間も大阪をうろうろ歩かせるなんて思ってませんよね。

男：ちょっと提案しただけだよ。

妻：ああ、結婚式。とってもロマンティックだわ。

【4】

A.

全訳

コロンブスがスペインから西インド諸島へ航海するのに4週間以上かかった。一方我々は飛行機で16時間で大洋を横断する。500年前は、手書きで本を複写するのに3~4年かかった。我々にはライノタイプと輪転機があり、新しい本を2~3日で印刷することができる。

B.

全訳

他の人々も我々と同様に生きる権利を持っていて、街路で我々の邪魔になる人たちも故意や悪意からそうするのではないという事実を我々が認めるとすぐ、この世はたいへん愉快に暮らせる場所となる。

C.

全訳

自然を入念に研究すればするほど、ますます広範囲に渡って秩序が行き渡っていることが明らかになってきた。一方では無秩序に見えたことも単に複雑なだけだということが判明した。その結果、今日では、原因のない出来事という意味での真の偶然というものがありうる信じるほど愚かな者はいない。

D.

全訳

年を取る前にシェイクスピアを本当に理解することは誰にもできない、というのは、確かに真実である。この点において、個人の場合と同様に、国家についても同じことが当てはまるだろう。イギリス国家も、長い歴史を経て初めて、本当にシェイクスピアを理解しはじめることができたのである。

【5】

解答

(1) a

(2) ① c ② a ③ b

(3) 「全訳」の下線部④～⑦参照。

(4) a, d, f

解説

(1) 文脈から「～のおかげで」を表す **a** Thanks to を選ぶ。

○ **b** Because も理由を表すが、後に節が続いていないので不可。

(2)

① closed 「①閉鎖した ②囲まれた ③閉店の ④制限された；非公開の；閉鎖的な；排他的な」

a old-fashioned 「時代後れの」 **b** popular 「人気のある」

c unknowable 「知られ得ない」 **d** rare 「稀な；珍しい」

② attract : ここでは動詞用法で「(興味などを) ひく」

a arouse 「①目覚めさせる ②(感情・行為などを) 刺激する；呼び起こす」

b admire 「敬服する」 **c** fascinate 「魅惑する」 **d** show 「示す；見せる」

③ enduring 「不朽の；恒久的な」

a suffering 「苦しんでいて」 **b** lasting 「永続する；永久的な」

c declining 「落ち目の」 **d** increasing 「ますます増加する」

(3)

ⓐ ◇ now that ~ 「今では～だから」《理由》

◇ the thrill of the first sight of ~ 「最初に～を見たわくわくする気持ち」

○ sight of ~ : see の名詞表現《目的格関係を表す of》

○ the thrill of ~ different まで全体が now that 節内の主語。

◇ wear off 「次第に無くなる；消えていく」

ⓑ ◇ the mystery serves too as a useful reminder that ~ 「その神秘性も～ということを思い出させるのに便利なものとして役立つ」《直訳》

○ the mystery : 西洋人が日本の作家の小説を読んだ後により感じるであろう日本人の理解し難さを指している。

○ serve as ~ 「～として役立つ；～として働く」

○ a reminder that ~ 「～ということを思い出させるもの」

○ remind O that ~ 「Oに～を思い出させる」 からきた表現。

◇ despite ~ 「～にもかかわらず」

◇ the efficiency and speed with which Japan is being modernized 「日本が近代化されつつあるその能率の良さと迅速さ」

○ 前置詞 + 関係代名詞 [*< Japan is being modernized with the efficiency and speed*]

○ ‘with + 名詞’ で副詞句を作り様態を表す用法。言い換えれば efficiently and speedily 「能率的に；迅速に」

◇ futurized 「未来化された」

◇ might : 現在の弱い推量を表す。

◇ appropriate 「適切な」

◇ term 「①期間 ②条件 ③専門用語, 言葉」

◇ lead 「～にリードする」

◇ *that of = the technology of* 《反復を避ける that の用法》

◇ there remain ~ 「～が依然として存在する」

◇ profound 「深い；深遠な；甚大な」

◇ mode of …ing 「…する方法〔様式〕」

④ ◇ The impact of Abe's recent work, for example, will hardly be less for English-speaking readers than for Japanese 「例えば、安部の最近の作品の印象は、日本人に対してよりも、英語圏の人々に対してのほうがより小さいということは、ほとんどないだろう」《直訳》

○ hardly … 「ほとんど…ない」

○ less : 劣等比較「より小さい」

④ ◇ some novels appeared that are nevertheless readily accessible to ~ 「それにもかかわらず、～にごくわかりやすい小説もいくつか現れた」

○ that は novels を先行詞とする関係代名詞。

○ nevertheless 「それにもかかわらず」

○ readily 「①快く；進んで ②容易に；難なく」

○ accessible 「①接近できる；入手可能な ②理解しやすい」

◇ a reader (who is) used to Western fiction と補って考える。「西洋の小説に慣れている読者」

○ used to ~ 「～に慣れていて」

(4)

a 日本の小説は、第2次世界大戦が終わって初めて、西洋人の手に簡単に入るようになつた。〔○〕

b 西洋の読者は、日本の文学の神髄を理解するのを簡単だと思う。〔×〕

c 西洋の読者は、日本の現代作家に対する熱狂的な興味を示す。〔×〕

d 日本の現代作家の作品の中には、進歩した都市工業社会の人ならば誰でも理解できるものもある。〔○〕

e 日本と西洋の経験の理解の仕方に関するギャップは、これまでと同様に大きい。〔×〕

f 『破戒』は現代の日本で高く評価されている。〔○〕

g 『破戒』は5刷目になってはじめて文学的センセーションを巻き起こした。〔×〕

全訳

第二次世界大戦後四半世紀の間に出版された多くの翻訳本のおかげで、現代の日本の小説はもはや、西洋人にとって非公開の書物ではなくなっている。しかし、いまだにその評判は、非常に風変わりな作物の評判といったものであり、なるほど妙なる何とも言い難い香りを持つものの、本質的には相容れないものと考えられている。④今では初めて何かとても異質なものを見た時の興奮が失せてしまったので、人々の日本文学に対する興味は丁重ではあるが、熱狂的とは言えない。夏目漱石、川端康成、三島由紀夫といった、日本の最も著名な（そして最も翻訳されている）作家の作品には、神秘的な雰囲気が漂っている。西洋の読者の中には、実際、正直なことを言えば、これらの作家のうちの誰かの小説を一篇か二篇読んだ後には、日本人がさらに理解しがたくなったと感じるのだと自状する者もいるであろう。日本の文化的伝統の特異性を考慮に入れれば、これはほとんど驚くべきことではない。⑤この神秘

性は、次のこともよく気づかせてくれる。すなわち、日本の迅速で効率よい近代化（今や日本の技術は西洋の技術を追い越しているのだから、「未来化」のほうが適切な言葉かもしれない）にもかかわらず、日本と西洋の経験を理解するやり方には、大きな差異が残ったままであるということだ。

実際、現代作家の中には、安部公房や大江健三郎などの、進歩した都市工業社会に住む人ならば誰でもすぐに理解できる言葉で自己を表現している作家も少数いる。④例えば、安部の最近の作品は、日本人に対してと同様に、英語圏の人々に対しても強い衝撃を与えるだろう。しかし、日本と西洋の経験が今日よりも明らかにずっとかけ離れていた20世紀の初頭でさえ、④それにもかかわらず西洋の小説に慣れている読者が容易に理解できる小説もいくつか出現した。これらの中で、島崎藤村の『破戒』は多分もっとも注目すべき小説であろう。日本ではこの小説は不朽の名声を保っている。この小説が私費により最初に出版された1906年に、かなりの文学的センセーションが巻き起こり、約28の新聞、雑誌に重要な書評が載せられ、初年度に第5刷まで達した。それ以来、この小説は増刷を重ねている。

注.....

- ℓ. 1 ◇ numerous 「多大な」
 - ◇ published : translations を修飾する過去分詞。
 - ◇ quarter-century 「四半世紀；25年」
- ℓ. 2 ◇ no longer … 「もはや…ない」
- ℓ. 3 ◇ that of ~ = the *reputation* of ~
 - ◇ highly 「非常に；大いに」
 - ◇ exotic [igzá:tik] 「①珍しい；風変わりな ②外来の；外国産の ③異国風の」
 - ◇ plant 「作物」（ここでは比喩的に用いられており、「作品」の意を表す）
 - ◇ with a rare and subtle scent, no doubt, but alien in its very essence, and attracting <挿入> polite but not enthusiastic interest : a highly exotic plant に説明を加える形容詞句。
「優れて微妙な雰囲気を持つが、本質的には異なり、丁重ではあるが、熱狂的とは言えない興味しか引くことはない」《直訳》
 - rare 「①まれな；珍しい ②希薄な ③すばらしい；優れた」
 - subtle [sátł] 「①かすかな；ほのかな ②微妙な；とらえ難い ③器用な；巧妙な」
 - scent [sént] 「①匂い；香り ②（動物の）臭跡；手掛けり ③嗅覚；勘；直感 ④香水」
 - no doubt : 直後の but と相関して、「なるほど…だが～」《讓歩》
 - alien [éiliən] 「①外国人の ②（～と）性質を異にする ③～と相容れない」
 - attract interest 「興味を引く」
 - ℓ. 6 ◇ distinguished 「①優れた；抜群の；有名な；著名な ②気品のある」
 - ℓ. 7 ◇ A, such as B 「BのようなA」
 - ℓ. 9 ◇ admit to ~ 「～を認める」
 - ここでは admit to …ing の形で用いられているが、この形は正用法と認められない場合もある。

- ◇ finding it even harder to *do* 「…することをさらに難しいと思う」
 - find O C 「OがCであると思う」(ここでは形式目的語itが用いられた形)
 - ◇ a novel or two by one or another of these writers 「これらの作家のうちの誰かによって書かれた1, 2の小説」
 - one or another of ~ 「～のうちのある人、あるいはまた別人」:「不特定の人」を表す。
- ℓ.10 ◇ That this should be so 「これがそうであろうということ」
- Thatは主語になる名詞節を導く接続詞。
 - should: 話し手の主観的判断を表す。
 - 通例は形式主語をとった形 (It is ~ that ...) で用いられる。
 - 前文 (Some Western ~ these writers.) の内容を受けて述べられた部分。
 - ◇ hardly 「ほとんど...ない; とても...ない」
 - ◇ given ~ 「～を考慮すると; ～と仮定すると」
- ℓ. 16 ◇ contemporary 「同時代の; 現代の」
- ℓ. 17 ◇ idiom 「①慣用語句 ②語法; 慣用法; 言葉 ③作風; 表現形式; 特徴」
- ℓ. 21 ◇ than is the case today 「今日の現状よりも」
- than が関係代名詞的に主語として働いている形。
- ℓ. 24 ◇ something of a ~ 「ちょっとした; かなりの」
- ℓ. 25 ◇ attracting ... : 付帯状況を表す分詞構文。
- and running into ~ も同様。
 - ◇ journal 「新聞; 雑誌」
 - ◇ run into ~ 「～に達する」
 - 「～に偶然会う」「～と衝突する」など多義語。
- ℓ. 26 ◇ it has not been out of print since 「それ (『破戒』) はそれ以来絶版になっていない」

【6】

ポイント

いきなりカッコ内の語句から考えずに、前後の内容からどのような接続関係になっているかを予想した上で並べ換えること。

解答・解説

(1) It was almost midnight by the time I got home.

「私が家に帰るころまでは真夜中に差し掛かっていた。」

- 「～までに」を表す場合、前置詞を用いて by ~となるが、節を続けて「SがVするまでに」を表す場合には by the time S V とする。

(2) As the sun colors flowers, so does art color life.

「太陽が花を彩るように、芸術は人生を彩る。」

- As S' V, so S V. 「S' がV' のように、SはV」

本問のように so 以下が倒置されることも多い。

(3) That she doesn't want to mail me is quite obvious.

「彼女が私にメールをしたくないということは極めて明白である。」

- that 節が名詞節として is の主語になっている。自分で英作文をする時には、長い主語は後置して、It is quite obvious that she doesn't want to mail me. とした方がよい。

(4) I am of the opinion that the world balance of power will be considerably altered in the near future.

「私は、世界の勢力均衡は近い将来かなり変わっていくだろうという意見です。」

- I am of (the) opinion that S V 「S V という意見です。」という表現は覚えておく。that は同格の接続詞。

(5) Fertility rates fall where women are free to determine whether they will have children.

「女性は子供を持つかどうかを自由に決められるようになったが、出生率は落ちている。」

- 本問のように、接続詞としての where には「～するのに (= whereas)」の意味がある。
- fertility rate 「出生率」
- be free to do 「自由に…することができる」

【7】

ポイント

入試英作文においては必ずしも名詞構文を使うことを強制されないのが普通であるが、名詞構文を使いこなすことで表現力が一気に豊かになるのも事実だ。今回はあえて名詞構文を使って英文を作ってみよう。

解答・解説

(1) It is said that the development of astrology into astronomy took six centuries [hundred years] .

- Astrology developed into astronomy. という英文を名詞化して書くことで前置詞 of の後に接続が可能になる。

(2) An analysis of the use of the word by experts shows you that his way of thinking is wrong.

- Experts use the word. を名詞化して、the use of the word by experts とする。無生物主語構文になっていることにも注意。

(3) The discovery by scientists of the modern human fossils in a geological layer led to advances in anthropology [marked an advance in anthropology] .

- Scientists discovered the modern human fossils in a geological layer を名詞化して、The discovery by scientists of the modern human fossils in a geological layer とする。

(4) The mysterious disappearance of bees began a decade ago in the U.S.

- Bees disappeared mysteriously. という英文を名詞化する。

○ なお、2006年以降、米国では、花粉を媒介するミツバチの突然死により受粉ができず農作物に打撃となる懸念が生じている (Colony Collapse Disorder (CCD) と呼ばれている) が、これは入試長文の素材としても度々扱われている。

(5) Despite increasing recognition by the public of transgender individuals, these

people continue to face social prejudice.

- The public is increasing recognition of transgender individuals. → increasing recognition by the public of transgender individuals と書き換える。

【8】

解答

- (1) It takes two full days to look over thousands of examination papers.
- (2) When you talk to others, don't look up at the ceiling or look down at the floor.
- (3) I'm coming for sure.
- (4) Have you come up with any new idea?
- (5) It's on me.
- (6) You're a mine of information.

解説

(1)

- 「…するのにA（時間）かかる」は It takes A（時間）to do. で表すのが基本。do の動作主を示したければ、

It takes B（動作主）A（時間）to do または、

It takes A（時間）for B（動作主）to do

の形式を用いる。それぞれ「B（動作主）が…するのにA（時間）かかる」という意味になる。

- 「何千枚という」は thousands of ~
- 「試験の答案」は examination papers で表す。この意味での paper は可算名詞である点に注意。
- 「（答案などに）目を通す、調べる」は look over を用いて表す。
- 「答案に目を通す」を「採点する」と考えれば、grade または mark、「添削する」と考えれば correct を用いてもよい。

(2)

- この文は一般論なので、主語は you が最適。「話をする時」は「（複数の）他人に話しかける時」と考えれば When you talk [speak] to others、「（単数の）他人に話しかける時」と考えれば When you talk [speak] to another、「何か物語（お話）をする時」と考えれば when you tell a story とする。
- 「～を見る」は通常 look at ~ であるが、その物が低いところにある時は look down at ~ を用いる。ただし、対象が物ではなく、人間である場合は「見上げる」すなわち「尊敬する」は look up to であり、「見下ろす」すなわち「軽蔑する」は look down on を用いる点に注意。

(3)

- パーティに来るかどうか訪ねられた時に「行く」というのは、今話題になっているパーティの開催地に行くことだから、「話題の場所に近づく」の意味の come を用いなくてはならない。

○頭の中では、パーティに行くことが既に始まっているので I'm coming と現在進行形を用いるのが慣用。

○「絶対」は I'm sure that を文頭におくか、for sure を文尾におけるべよい。

I'm coming for sure. / I'm sure (that) I'm coming.

○なお、「行くかどうかよくわかりません」の場合は I'm not sure if で始めて、I'm not sure if I'm coming. となる。

(4)

○「何か新しいアイデアは浮かびましたか」の「何か新しいアイデアが浮かぶ」は up を用いれば、

come up with	any new idea(s)
pick up	

とも表現できる。

○ come up with は discover; produce, pick up は learn; become aware of の意味だが、いずれも人を主語にして idea(s) を目的語にとることができる。したがって、

Have you	come up with	any new idea(s)?
	picked up	
Did you	come up with	any new idea(s)?
	pick up	

が正解となる。

○ come up with も pick up も入試頻出の句動詞。

Ex. Scientists have come up with many explanations for why the sky is blue.

(科学者たちはなぜ空が青いのかということに関して多くの説明を考え出してきた。)

The teacher came up with an excellent solution to the problem.

(教師はその問題の素晴らしい解答を思い付いた。)

pick up new ideas and learn new methods for marketing one's products

(新しい考え方を身につけ、製品販売の新しい方法を習得する)

pick up excellent English (すばらしい英語を聞き覚える)

(5)

○「私のおごりです」に対応する英語は

Ⓐ It's my treat.

Ⓑ It's on me.

で、Ⓐ、Ⓑとも多義語、口語表現の問題としてよく狙われる。

Ⓐの treat は「扱う」という意味から「親切に取り扱う」→「おごる」という意味に発展した。その「おごる」という意味の treat の名詞形が本問の treat となる。

cf. I'll treat you. (君におごってやるよ。)

Give me a treat. (ご馳走してください。)

Ⓑの on は、on の持つ基本的な意味の「接觸」から「～の負担で」→「(飲食物などの勘定が) ～持ちで」の意味で用いられるようになったもの。

cf. This coffee is on me. (このコーヒーは私のおごりだ。)

Have a drink on me! (おごるから 1杯飲みなさい。)

This is on the house. (これは店のおごりだ。)

(6)

- mine は普通名詞として様々な意味を持つ。
- 「鉱山」という意味が基本で dig a mine (鉱山を掘る) の様に使う。
- 次に新聞・雑誌でよく出てくるのは「地雷」「機雷」で lay mines 「機雷を敷設する」の様に用いる。
- また、「鉱山」という意味から「(情報などの) 豊かな源, 宝庫」という意味に発展し, a mine of information で「知識の宝庫」となり, She is a mine of information about the villagers. (彼女は村人のことなら何でも知っている。) の様に用いる。本問ではこの mine を用いて You're a mine of information. とすればよい。

今日の一言

If wishes were horses, beggars would ride.

「望んで馬が手に入るなら乞食でも馬に乗るだろう。」

典型的な仮定法過去の表現である。もし wishes = horses, つまり, 「望むだけで馬になるなら」, 乞食だって馬を手に入れて乗ることが出来てしまう。地球上のすべての人が, 望んだだけで望んだものが手に入ることになってしまう。しかし現実には, 願望だけでは何事も成就しないものだ。合格したいという願望は大切であるが, それを実現させるのはあなた自身の “action (行動)” である。